
無契約の魔術師 —magician of anestria—

中里肴

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

無契約の魔術師 | m a g i c i a n o f a n e s t r i a |

【Nコード】

N 8 7 9 8 Y

【作者名】

中里肴

【あらすじ】

ここは魔法の息づく世界ソルミナ。

魔法は常に人と在り、人の在る処に魔法が在る。これは、そんな世界で魔術師を目指すとする青年の物語。

英雄の話

荒廃した大地、不毛の地。

かつて栄華を極めた魔法都市テーゼの面影は無い。瓦礫の山と血の海がどこまでも続いている。

全てはそう、一人の黒魔術師が犯したたった一度の召喚魔法が引き起こした結果——と言つても誰も信じられないだろう。

“獄炎の悪魔”、—“灼熱悪魔”の名を冠するソレは僅か数日で世界最高峰の“魔法護壁”を破り、数千の魔術師を相手に傷を負いながらも三日目の晩、遂に都市を崩落させた。

三万を超えていた魔術師も一万を切り、誰もが絶望した時だった。“彼”が現れたのは。

『随分とお困りの御様子で？』

尚も暴れ続ける破壊の権化を目の前にしても彼は飄々としていた。どこからともなく現れた青年を、辛くも生き残っていた人々は一瞥し、嘆息した。

ボロボロの布切れのような灰色のコートに磨り減った靴底、肩に掛けられている大きな木製の杖は所々欠けている。

どう見ても駆け出しのひよっこ魔術師だ。それに肝心の——

『報酬はツケでいいから。』

皆が止めるのも聞かずに立ち向かう青年。高々と掲げられた古木の杖に魔力を宿し——。

『君は……いや、貴方は一体……？』

『ただの見習い魔術師だよ。』

呆気にとられた人々を残して去ったその青年の噂は瞬く間に全土に
広がり、いつしか彼はこう呼ばれるようになった。——“無契約の
トリア魔術師”——と。
アネス

？

「——むう…朝か。」

朝の日射しが寝起きの顔に染みる。眩しい…。

モゾモゾの布団を頭から被り直して二度寝する。今日は授業が無いから遅刻の心配も無い。朝食は食べられなくてもその分昼食を採ればいいのだから問題無い。唯一の障害は——

「起きろ、カイル!!」

——来た、障害が。

俺は布団の端を掴んで来るべき襲撃に備えた。今日こそは勝ってみせるッ!!

「休みだからってダラダラするなッ!!」

突然布団を引っ張り上げられるのを感じて、身を固める。なんつー馬鹿力、これで本当に女かよ!?

全体重を乗せて踏ん張っているにも関わらず、布団はズルズルと音をたてて引っ張られていく。

「いい加減に——しろッ!!」

「うわっ!!」

一瞬身体が宙に浮いたかと思うと、仰向けになった俺の手から布団が離れていった。

ボスン、とベッドが俺を受け止めるのと同じ、視界の中央にはこちらを覗き込む顔が。

雪のように白い肌と絹のような柔らかな光を纏った金の髪に整った顔立ち。幼馴染みリメリアの姿がそこにあった。

「まだまだだな、カイル。」

ニヤリと口の端を歪めた彼女は起伏に乏しい胸の前で腕を組むとフン、と鼻を鳴らした。

「ボソツ（自分の成長の心配しろっての）」

今年14になる見た目10歳の少女を一瞥すると声を落として呟いた。

「何か言ったか…？」

「何でもございません。」

鋭く睨む彼女の視線を避けて素早くベッドから起き上がると『着替えるから。』と断って部屋から追い出す。

「ふう…疲れた。」

きつと扉の向こう側では眉を吊り上げて待っている事だろう。急がなければどやされるに違いない。

『遅いぞ！！まだか！？』

「一分もたっていないだろうがっ！！」

バンバンとドアを叩くりメリア。まったくせつかちにも程があるだろ…。

今も昔も変わらない幼馴染みの様子に短く嘆息しつつローブに着替えた。

「三分も淑女^{レディ}を待たせるとは…… たく、」

「この前急いだ時は“もつと身嗜みに気を遣え!!” って怒ったじゃないか。」

「あの時は余りにも寝癖が酷かったからだ、バカっ。」

「っゝゝ!!」

全力でデコピンしやがった… 痛えゝ!!

「何だ、文句でもあるのか？」

横目でこちらを睨む彼女の威圧感に、食堂まで終始無言のカイルであった。

「おはようございますリメリア嬢、今日もお美しい!!……あとカイルもおはよう。」

「お早うプラム。」

「俺はオマケだよ。」

爽やかスマイルの貴公子然としたコイツはプラム・モール。父親が伯爵の地位にある本物の貴族であり、先代の“賢人オクラティス”を筆頭に多くの魔術師を輩出する名家の息子である。

「リメリアの前では万物が引き立て役さ。……それより、よく食べるんだね君は。」

俺の前に置かれた朝食を見たプラムは『十分だ』とでも言いたげにそこから目を逸らした。

「ん？別に普通だろ。」

「トーストエッグ5つにコーンスープ2杯とサラダ、ベーコン10枚目は普通とは言わん。」

ホットケーキを切り分けていた手を止めたリメリアが間髪入れずツッコんだ。

「だって、この後昼食も食うのに——。」

「何故その体型を維持出来るのか不思議でならないよ……。」

「まったく同感だ……。」

盆と俺とを交互に見る二人。

「リメリアはもっと食わないと成長しな——」

「変わった遺言だな、カイル。」

「リメリアさん、ジョークってご存知？」

メーブルシロップのついたナイフが首元で妖しく光る。

「ジョーダンみたいなクルシミの略だろう？」

「ハハハ…本気で言ってるか？」

「そう見えるか？」

ニヒルにそう問う彼女にただ黙る他ない二人であった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、^{たんのう}堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8798y/>

無契約の魔術師 —magician of anestria—

2011年11月26日23時46分発行